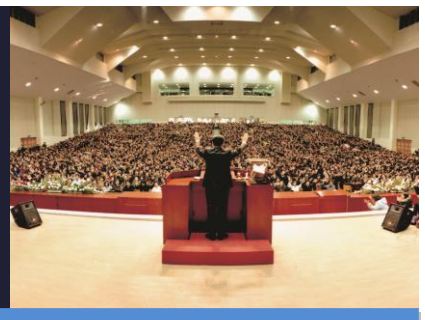
第 2017-49 号

恵みと真理のニュース



2017 年 12 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　いつも私と共におられ人生の節目ことに問題を解決してくださった神様の恵みに感謝します

父親が重い病気にかかって闘病生活をする前までの家庭はずべての家族が偶像宗教に落ちて生きました。伝道士が伝える福音に耳を傾けなくてむしろ伝道者を迫害しました。そうする中で父親が重い病気にかかって治療の希望がない闘病生活をするようになりました。病院で心の準備をして父に良いのだけ差し上げるように言われました。
そんな状況で私の家族は初めて伝道者が伝える永生と天国について全能なる神様に対する関心を持つようになって教会に来て決心して信仰生活を始めました。父と共に家族と熱心に礼拝に山積して説教を聞いて祈りをして賛美しました。父によって家族が主の前に来て主の前で膝をまずいて祈る家庭になりました。父親は1年が超える信仰生活をしながら天国に行きました。私はその時まで信仰より義務感で家族をついて教会に通いました。
父が亡くなり、私は信仰生活に懐疑を抱きました。その頃、母が御言葉に充満な生活のため恵みと真理教会で生活を続けるようになって私も母をついて恵みと真理教会の聖徒になりました。当会長の牧師の説教を聞き教会に属してまもなく救いの確信を持つようになりました。しかし、経験してから世の事に忙しくて主日礼拝だけ捧げて平日礼拝と祈り会は参席しませんでした。それで信仰が深くならなくて信仰生活に発展がなかったです。
熱くもなく冷たくもないぬるい信仰で信仰生活をしているうちにアンサン市に引っ越ししました。そして、まもなくアンサンも聖殿が建てられました。その時から私は新たな心と覚悟を持って信仰生活をするようになりました。金曜祈り会に参席して御言葉を聴き切ない心で祈るときに聖霊洗礼を受けました。私の魂を救ってくださった神様の恵みと愛を深く悟って涙で悔い改めて感謝の祈りを捧げました。信仰は聞いて成長するという御言葉の意味を確実に知るようになりました。受けた御言葉を心に受けて御言葉の通りに生きるように力を尽くしました。
その愛でよく運営をしていた私の事業場が大きい危機になった時が何回ありました。まず、信じた知り合いの人から裏切られて不渡りの危険がありました。目の前が真っ黒な状況で神様を仰ぎながら切に祈りました。そんな私に神様は" わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、 虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。（コリント信徒への手紙二４：８，９）という御言葉をくださいました。とても大きい不渡りの危機だったので私の力でどうすることが出来なくてただ、落胆するしかない状況でした。ところが、神様が聖霊で慰めて下さり、その問題を克服するように力と勇気をくださいました。そして、親戚たちの心を動かしてくださってまた、助ける手を送ってくださり問題がよく解決して不渡りを防ぐことが出来ました。
その時、感謝祈りを捧げる中で神様の御旨を知るようになりました。今まであちこち地方に行き来し事業するためその時ことに近い教会に行って礼拝を捧げたりしましたが、今は所属監が深くなって我が教会の礼拝に忠実して教会の目標を成し遂げることに参与して献身するようになりました。地方に行っても主日には家に来て我が教会で礼拝を捧げました。礼拝を捧げることに当会長牧師がお話す御言葉におおきいめぐみを受けました。そしてその後地方に行っても我が教会の聖殿が建てられて神様に感謝します。
神様が知恵をくださって子供二人をイエスっ様を誰よりも愛して礼拝中心の生活をするように養育してくださいました。事業場また神様がくださる知恵と能力でよく導いてくださいました。しばらくの間、旦那のせいで大きい苦痛の受けった時がありましたが、その時も神様に真実な子供を見ながら苦難を乗り越えるようにしてくださいました。私は日常の楽しさにも大きい幸せを感じるようになって子供達の信仰もすくすくと育ちました。わたしは毎日朝目が覚めると"今日が私の人生の最後の日だ。"と思いながら神様に祈りながら一日をはじめて夜になると体力が全部なくなるほど最善を尽くして生きました。それにも何年前は長期不況で事業場の賃貸料も払えなくて10年超えるほど運営した事業場が追い出される状況になりました。私が生きる理由は主であり、私を生かせる方は主だけで私を導かれる方も主だけです。神様に祈りました。私の祈りを聞いて下さりご働いてくださいました。今回も神様だけが出来る摂理で奇跡のような事でした。
この事を経験してから私もパウロのように" 物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。（フィリピの信徒への手紙4章11～13節）告白するようになりました。ハレルヤ！
私は GNTCミュージカル"携挙" を見て深く感銘と感動を受けました。いつも起きていて毎日最善を尽くして主のことに最善を尽くべきことと真に悟って、今まで主の事に熱心にしなかったことを悔い改めながら涙を流しました。そして、事業に関連した心配した私が大胆になって私にあるすべてを主に捧げる愛と信仰をもつようになりました。
過去を振り替えてみると主はいつも私とともにおられ、人生の節目ごとに問題が解決するように大きくて驚くな恵みを与えてくださいました。これからは世的なすべてものを降ろして主のことのため私の残った人生を捧げて奉仕し献身するように希望します。神様がくださった区域長の職分に最善を尽くしてすべてのことを信仰と愛で神様に栄光を捧げるように祈ります。

［信仰コラム］　貪欲を治める秘訣

"それから人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである」。"
（ルカによる福音書 12:15）

心の状態は外部の状態以上に私達の生活に重大な影響を及ぼします。従って、心を治めることの重要さはいかに強調しても過ぎません。"貪欲を治める秘訣"に関して調べてみましょう。
聖書は非とが欲望を持つことは奨励するが、貪欲を持つのは禁じています。
行動科学者マッドロウは人間の欲望を五つの段階に分けて説明しました。第 1 段階は食欲のような基本的な欲望、第 2 段階は安全と安定に対する欲望、第 3 段階は人間的な親和関係、交際関係を持とうとする社会的な欲望、第 4 段階は名誉欲、個性、自尊心、自主性を渇望する自我欲望、第 5 段階は自己完成、自己実現の欲望です。欲望をどのように分類して分析しても確なことは人はとても多様な欲望を持って生活するという事実です。ある人々は何の欲望もない境地に至ろうと励みながら道を修めますが、余計なことです。そのような境地に至ろうとすること自体が一つの欲望です。何事も求めて願うのがないなら無気力症、意欲喪失症というとても深刻な病気にかかったのです。
聖書は私達に神様に向いて大きくて多くの欲望を持つよう勧めています。神様に求めなさい、神様に叫びなさいという御言葉が聖書に多く記録されています。イエス様は私達に神様の恵みと助けを積極的に求めるよう言われ、これを比喩として教えられたこともあります。私達は物事に意欲が溢れなければならず、欲望を持って神様の助けを求めながら一生懸命に努力すべきです。しかし、注意すべきのことは欲望は持つが、貪欲は持ってはならないということです。貪欲とは分に過ぎる欲望であり欲心です。
貪欲を持つと様々な悪い弊害が生じます。正しくない傾向や有害な現象が従います。
一、貪欲は私達の生活で感動と満足がなくなるようにします。貪欲はリレー競走のように一つの欲心が成就されるとまた異なる欲心が手を伸ばすので絶えず不満しながら生活します。二、貪欲は偽り、否定、不義、悪どいの温床になります。人間社会で発生する様々な否定腐敗と悪い犯罪は貪欲によることです。三、貪欲は判断力と分別力を抹殺させます。四、貪欲は破滅をもたらします。イスカリオテのユダは貪欲が彼の心に根付くと現金を盗むようになり結局は、大祭司長にお金を受けてイエス様を売り渡した後、自責した末に首をくくって死にました。貪欲は爆風のようで船を破船させます。聖書には"貪欲は偶像礼拝にほかならない。"、"欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。"と記録されています。
貪欲を治める方法に対して調べてみましょう。
第一、一攫千金を願ってはなりません。一攫千金を願うと詐欺師にかかります。真面目に働いて得た所得には金銭以上の価値があります。第二、何を求めても愛の動機ですべきです。神様を愛する動機と隣の人を愛する動機で行うと貪欲が介入する余地がありません。第三、得ようとする欲望とあげようとする欲望が均衡と調和がとれるようにしなければなりません。すると幸いな生活になります。第四、物事に最善を尽くして結果は神様の導きに任せるべきです。このような態度を取ると貪欲の支配を受けなくなります。第五、聖徒達は天国に向いて行く旅人だということを常に考えなければなりません。天国で享受する福楽を考えるとこの世の財物と名声に執着しません。財物と名声を貪って年月を浪費しません。
私達がキリストの中で変化されて得たことが極めて大きくて豊かであります。この世にある何物を加えて引いても大きく変わることがありません。従って、貪欲を持って無理に行いながら生活する理由がありません。キリストの中にいる人々はこの世が与えることができなく、奪うこともできない満足と余裕を持ちながら生活することができます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

予測と予言

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は誰でも、将来のことを今知ってほしいです。興味からだけではありません。これから何が起こるかを事前に知ることと、今、適切に備えができていいのに助けになるからです。今後のことを事前に推測することが予測します。そのことが発生する可能性を見積もり指になります。したがって、予測される言葉には、必ずそうなると断言する表現をしていません。概して経験や統計の資料を参酌して、予測が、予感に予測することもあります。
しかし、このような状態がいつまで続くのかについては、予測だけです。人々が事前に知ろうとすることの中には国際情勢があります。国際政治や国際情勢に関する予測は的中することは困難です。変化の要因が多く、非常に複雑微妙ためです。そのため、「おそらく」という副詞が前提された主張をするしかありません。あまりにも断定的に主張をすると、ややもする彼の言葉に権威と信頼性が低下することがあります。予測が外れることができるからです。
人は洗練された機構、技術、参考資料と経験があっても何の事がどのようになることについては予測可能性予告と判断をするしかありません。予期せぬ変動がある可能性のためです。ところが、100％確実な予告と判断をすることができていることがあります。聖書に記録された約束と予言がそうです。
聖書の約束と予言は何が発生する可能性を見積もり察し予測して予告することではありません。詩篇 119 篇 89 節に**「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり、」**と記録された。神の言葉の永遠と不変を強調する表現です。民数記 23 章 19 節に記録されることを**「神は人のように偽ることはなく、また人の子のように悔いることもない。言ったことで、行わないことがあろうか、語ったことで、しとげないことがあろうか。」**しました。イエス・キリストによるの救いは、聖書の重要なメッセージです。したがって、聖書の預言は、イエス・キリストの罪人のための贖いの死と復活と再臨についてのお知らせです。聖書には、イエス・キリストの誕生と活動と贖いの死と復活と再臨の預言がたくさんあります。これらの予測は、正確ににんな行われ、また行われるようになります。

1.イエスの誕生が、普通の人の誕生と異なる点の一つは、預言者を通して長い時間の前に予測された事実である。

新約聖書のマタイによる福音書「預言者になされた言葉を成就するためである」という表現を 13 回使用しました。そして　旧約聖書に預言された言葉を引用したのが 129 回に達しています。

イエスの誕生は、予測された言葉のとおりになりました。主の使いがヨセフに夢で言った、**「すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。 ″（マタイによる福音書 1：22,23）**しました。イエスがベツレヘムで誕生したのも予測された言葉のとおりされたものです。
マタイによる福音書 2 章 5,6 節に記録されることを**「彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしるしています、『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう」（マタイによる福音書　2：5,6）**しました。イエスがナザレで育ったのも、聖書に預言されたとおりなされたものです。マタイによる福音書 2 章 23 節に記録されることを、**「ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちによって、「彼はナザレ人と呼ばれるであろう」と言われたことが、成就するためである。」**しました。

2.イエスのすべての活動は、聖書に預言されたままでした。

福音書に記録されたイエスの業績の中、かなり多くの部分がいやしの仕事を行っていることです。マタイによる福音書 8 章を見れば、イエスが病人を癒される場面が連続しています。この連続した癒しの記事の後にこのように記録された。**「これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。 」（マタイによる福音書 8:17）。**

3.イエスは、聖書に預言されたままに苦しみ受け死なれました。

イエスの最後の晩餐を終えた後、弟子たちを連れてオリーブ山ゲッセマネの園に行かれました。イエスは地上にうつぶせ祈りました。日が明るくなると自身が全人類の罪を代わりに担当してつけられ死んでしまうことを考えました。そして父なる神に祈りました。**「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。（マルコによる福音書 14:36）**。父の意味は、すでに決めされ、聖書に予言されています。したがって、「父のみこころのままになさってください」しました。
また、イエスはローマの兵士たちに捕まえた後、ペテロに言われ、**「それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」。（マタイによる福音書 26：53,54）**しました。イエスは自分自身についての予言された言葉を少しもずれなく成し遂げました。このような事実は、聖書の預言は、一点一画もずれがなく、すべてが行われることを教えてくれます。

4.イエスは、聖書に預言されたとおり、復活されました。

使徒パウロはカイザリヤでベスド総督とアグリッパ王が同席した中で裁判を受ける位置に立ちました。パウロは言った、**「しかし、わたしは今日に至るまで神の加護を受け、このように立って、小さい者にも大きい者にもあかしをなし、預言者たちやモーセが、今後起るべきだと語ったことを、そのまま述べてきました。すなわち、キリストが苦難を受けること、また、死人の中から最初によみがえって、この国民と異邦人とに、光を宣べ伝えるに至ることを、あかししたのです」（使徒行伝 26：22,23）**しました。パウロは、イエスの死と復活は、「預言者たちとモーセが必ずそうなると示された」ことと言いました。
イエスの誕生から復活までのすべてのものは神の約束と預言者を通して預言されたままになりました。神は全能で忠実ですので約束の通り成し遂げ、予測されたまま成し遂げられます。これらの事実は、聖書に啓示された預言と約束は必ず成就するという信仰を私たちが持つことができるようしてくれます。そして将来行われることについて確実な希望を持つようにします。
イエスの再臨の約束と予言も、聖書に記録されたままに必ず行われます。新しい天と新しい地が到来して聖徒たちの新しいエルサレムに入って主と一緒に永遠にいのちと祝福を享受されている約束と予言も、聖書に記録されたままに必ず成し遂げられます。
人はどのようなものがどのようになることについては予測可能性の予告や判断をするしかありません。予期せぬ変動がある可能性のためです。100％確実な予告は、聖書に記録された約束と予言だけです。何について、あなたが予測したことが外れても、過度に悲しいか落胆しないでください。なぜなら、聖徒たちは、神から与えられた預言を持ったからです。神の約束とその預言はどんな場合にもそのまま必ず行われます。
「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」（詩篇 23：4～6）。この約束と予言は、あなたのために与えられたものです。
「 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」（ ローマ人への手紙 8:28）
「 すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。」（ テサロニケ人への第一の手紙 4：16,17）。
皆さんのために与えられた約束であり、予言です。これらの言葉は、必ずしもそうなる予言です。

今日の本文には、**「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。」**としました。あなたは、聖書に記録されたとおり、必ず行われる予測により、常に強く大胆で希望に満ちた生活をしてをください。